

幼児の指外傷 における 初期対応と 感染予防が 奏功したケース



日本ホメオパシーセンター岐阜北方

JPHMA認定ホメオパスNo.1128 JPHF認定フラワーエッセンス療法士

溝口彩子

主訴

4才女児
怪我対応



幼稚園から帰宅

小指にバンドエイド→パンパンに腫脹



幼稚園へ確認

「他児に踏まれた可能性」※詳細不明



バンドエイドを外し患部確認

皮膚約半分剥離・水疱形成・滲出液流出



皮膚科受診

骨折なし/ 経過観察（必要時抗生剤外用の指示）



母親の初期対応

クライアントに **Acon・Bell** を与える

※母親は基本キット・キッズキット・マザーチンクチャーを複数所有



緊急相談



DAY
01

Arn. と **Calen.** をそれぞれ粒で 3,4回リピート後
下記を水ポーテンシーでとおとりいただいた。

MT)エキネシア + MT)カレンデュラ

+ **Arn.30C** 事故、ケガ、びらん

+ **Calen.30C** 化膿防止、組織の修復、肉が形成促進

+ **Staph.30C** 切り傷、怒り

+ **Pyrog. 200C** 感染防止、ひりひりする痛み

出先で緊急相談を受け、帰宅後**TBR検索**を行った。

1 : 1970# 損傷

2 : 1124# 患部の腫れ

検索結果 5位Phos.(びらん、ただれ、表皮剥離、細胞機能を高める)と14位Calc.(びらん、ただれ)を選択。

これらを上記の水ポーテンシーへ追加（いずれも30Cを使用）と、患部の外用手当にCクリームとガーゼ保護を提案。

DAY
02

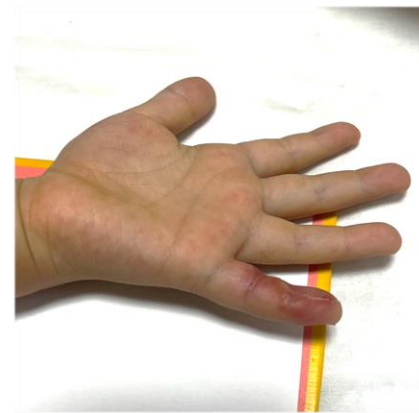
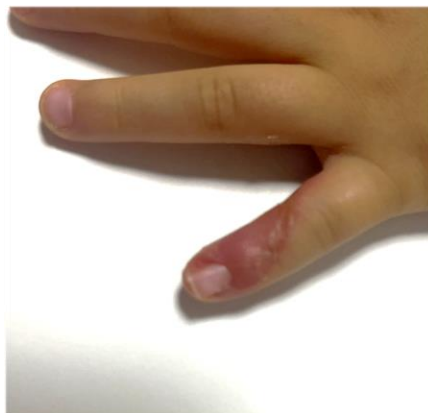
2025.10.03

滲出液はなし。薄いピンク色のぷっくりとした艶のある膜感。昨日と同じ内容の水ポーテンシーにキットから**Sulph**の追加を提案。



2025.10.04

DAY
03





赤みは残るが、表皮が表面を覆い、乾いた膜感。
クライアントが指のひりひり感を訴える。

TBRにてレメディ検索

1 : 1408 # 皮膚のひりひりする痛み

2 : 268 # 指

TBR2位Sulph. 3位Rhus. 5位Nat-m. 6位Calc.を選択。
下記の内容の水ポーションシーをキットからご提案。

MT)エキネシア+MT)カレンデュラ+
MT)アーティカプラット

+ **Arn.** 事故、ケガ、びらん

+ **Calen.** 化膿防止、組織の修復、肉芽形成促進

+ **Pyrog. Sulph.** 感染防止、修復促進

+ **Canth.** ひりひり感

+ **Rhus-t.** 損傷、焼けるような痛み

+ **Nat-m.** 組織の新生

+ **Carb-v.** 循環・回復力の底上げ

➡ 夕方にはひりひりが止む。

DAY 04

2025.10.05

1日目から毎晩Cクリームとガーゼ保護継続。
赤みは残るものの、皮膚が乾燥し安定してきたので
レメディー選択の内容を組織修復へとシフト。

MT)エキネシア + MT)アーティカプラット + MT)ケブラコ
+ **Ferr-p.** 酸素補給、炎症抑制
+ **Nat-m.** 組織の新生
+ **Calc.** 皮膚のサポート
+ **Pyrog. Sulph.** 修復促進
+ **Carb-v.** 循環・回復力の底上げ
+ **Sil.** 皮膚の成長サポート



2025.10.08

1週間後、皮膚の再生がほぼ完了。
赤みが薄れ周囲の皮膚になじんだ。



結果

考察

0 1 初期対応

母親自身による Acon.、Bell.の初期対応により、急性期のショック・炎症反応の過度な進展を抑え、腫脹の拡大防止に寄与したと考えられる。

0 2 修復への移行

その後、Arn.、Calen. をそれぞれ3～4回リピートすることで、損傷部位を「修復へ向かう流れ」に方向づけた。

0 3 感染予防・創部の清浄化

MT)エキネシア、MT)カレンデュラ を軸に感染予防と創部の清浄化を図り、Pyrog. を併用。感染リスクに備える体制を整えた。

0 4 組織修復・治癒の促進

Calc.、Ferr-p.、Nat-m. など組織修復を段階的に支え、Sulph.、Carb-v. の併用により治癒の停滞を防ぐ構成とした。

本ケースは、外傷における初期対応として
Arn. Calen.を粒で早期に繰り返し用いる
ことが、その後の経過全体を安定させる基
盤となることを示した事例である。

最後まで御覧いただき、ありがとうございました。
このケースが皆さまの、お守りになりますように！